

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2603 号

Comparison of the Causes of Death Identified Using Automated Verbal Autopsy and Complete Autopsy among Brought-in-Dead Cases at a Tertiary Hospital in Sub-Saharan Africa

サハラ以南アフリカの3次病院における到着時死亡症例の自動口頭剖検並びに剖検による同定された死因の比較研究

横堀 雄太 (よこぼり ゆうた)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、自動口頭剖検プログラム(インタビューで得られた死亡前の患者情報をもとに最も可能性の高い死因を提示する)Inter-VA5 で同定された死因の妥当性を検証するために、ザンビアの3次医療施設のひとつ(ザンビア教育病院)におけるすべての到着時死亡症例(2019年9月~2020年1月の63例)のうち、Inter-VA5により死因が同定された50例について、実際の剖検により同定された死因とInter-VA5による死因とを比較した論文である。結果として、到着時死亡症例の死因を決定するInter-VA5の陽性的中率20%と低かったが、途上国において到着時死亡症例の死因が十分分析されていないという点と、母体死亡・感染性疾患・非感染性疾患の大きなカテゴリで見ると56%の的中率である点を考慮すると、Inter-VA5により継続して死因情報を収集し傾向を見ていく事ができれば、政策的に意義のあるデータとなる可能性がある。当研究には、口頭剖検面接の質、InterVA-5で利用可能な限られた死因カテゴリー、剖検術者による死因の記録方法等の制限があり、さらなる研究が必要と思われるが、WHOで推奨されているプログラムでもある自動口頭剖検プログラムの妥当性を検証するために剖検により同定された死因と比較した初めての研究であり、社会医学的、臨床的に意義ある論文と考えられた。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。